

家畜防疫作業発生時における救護対応マニュアル

1 救護所の設営及び運営

(1) 対応者

| | |
|--------------|-----------------------|
| 防疫支援グループリーダー | 農林事務所（畜産振興課）職員 |
| 救護担当職員 | 委託事業者看護師又は保健所保健師等（2名） |

(2) 設営及び運営

- 防疫支援グループリーダーは、防疫支援センター内に救護所を設営し、全体的な運営を行う。
- 救護所の資機材は、現地対策班が防疫支援センターに適宜配置し、速やかに会場準備を完了する。
- 救護担当職員は、円滑な救護所の運営ができるよう防疫支援グループリーダーに対して設営及び運営について助言等を行う。
- 発生農場の管轄保健所の救護担当職員は、救護者が救急搬送や外来受診が必要な場合を想定し、管轄の消防本部及び救急医療機関等を調整し、連絡先を救護所に掲示する。

2 救護担当の編成・役割

(1) 救護担当の編成

初動対応（発生確認から翌々日の朝が目安）は、保健所保健師等が2名体制で対応する。

※班員については、保健政策課があらかじめ保健所保健師等の動員依頼を行い、「家畜防疫発生時の救護担当者名簿」（以下「担当者名簿」という。）を作成する。

※実際に、豚熱・高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は、畜産課から提供された防疫作業スケジュールに基づき、保健政策課が担当者名簿により、各保健所次長に派遣者の確認を行う。

※発生地農場を管轄する保健所は、1班目のみの派遣とする。

※従事開始時間は、現地防疫支援センターの設置開始時間により変動する。

| | 日程 | 従事時間 | 保健師等 | | | |
|-----|-------|-------------|----------------|--------|-------------|--------|
| | | | 発 生 地 保 健 所 | (保健師名) | 〇〇 保 健 所 | (保健師名) |
| 1 班 | 1 日 目 | 0:00～8:00 | | (保健師名) | 〇〇 保 健 所 | (保健師名) |
| 2 班 | 1 日 目 | 8:00～16:00 | 〇〇 | (保健師名) | 〇〇 | (保健師名) |
| 3 班 | 1 日 目 | 16:00～24:00 | 〇〇 | (保健師名) | 〇〇 | (保健師名) |
| 4 班 | 2 日 目 | 0:00～8:00 | 〇〇 | (保健師名) | 〇〇 | (保健師名) |
| 5 班 | 2 日 目 | 8:00～16:00 | 〇〇 | (保健師名) | 〇〇 | (保健師名) |
| 6 班 | 2 日 目 | 16:00～24:00 | 〇〇 | (保健師名) | 〇〇 | (保健師名) |

(2) 従事時間

1 グループあたり原則として8時間勤務とし、次のグループへの引き継ぎが完了するまで待機する。

ただし、深夜帯における交代に支障がある等の理由がある場合には、勤務時間を変更することができる。

(3) 救護担当職員（保健所保健師等）の招集

(ア) 連絡時期

保健政策課は、畜産課から連絡（鳥インフルエンザは簡易検査、豚熱は家畜保健衛生所の遺伝子検査で陽性と判明し、防疫支援センターの設置場所が決定した時点）に基づき、発生農場管轄保健所、健康推進課に連絡する。

(イ) 救護担当職員の招集

保健政策課から保健師等の動員要請を受けた保健所次長は、あらかじめ作成された担当者名簿により、当該職員に対し、防疫支援センターの所在地及び集合時間等を連絡する。

救護担当職員が所属する保健所次長は、動員職員の変更等の有無について保健政策課に報告する。

担当者名簿に記載された職員が対応できない場合は、原則、当該所属内で代替え職員を調整し動員する。ただし、所属内で調整が困難な場合は、保健政策課と健康推進課で派遣保健師を調整する。

(ウ) 救護の実施

救護担当職員は、防疫支援グループリーダーの指示に基づき、防疫措置等を行う関係者等（以下「防疫作業従事者」という。）が体調不良等を訴えた際に、症状の聞き取りや応急手当等を行うとともに、必要に応じて救急搬送の要請を行う。

(エ) 救護記録の作成・報告

救護担当職員は、別添報告様式により救護記録を作成し、原則として従事時間終了時に、防疫支援グループリーダーに報告を行う。

(オ) その他

救護担当職員は、救護業務がない場合は、防疫作業従事者に対する健康調査（健康確認票回収等）業務に協力する（高病原性鳥インフルエンザ対応に限る）。

3 防疫作業従事者の健康確認

救護担当職員は、防疫作業従事者の健康確認、相談には対応を行わない。動員時に以下の健康状態の確認を依頼していることから、防疫作業従事者から該当する旨の申

し出があった場合には、防疫支援グループリーダーに対応を依頼する。

(所属長は、以下に該当する職員は動員しない。)

【事前確認事項（豚・鳥共通）】

- ①現在、喘息、心臓病、腎臓病、肝臓病、高血圧、血液疾患などの慢性疾患で治療・投薬を受けており、健康上の不安がある。
- ②37.5℃以上の発熱を呈している。
- ③その他、何等かの体調不良または健康上の不安がある。

【事前確認事項（高病原性鳥インフルエンザ）】

- ① 1週間以内に本人または家族がインフルエンザと診断された。
- ② インフルエンザ様症状（悪寒、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身倦怠感、咽頭痛など）がある。
- ③ 鳥アレルギーがある。

(参考)

家畜防疫作業発生時の救護対応**必要物品**一覧(救護用としてまとめて配置する)

<農林水産部で準備> 消耗品は1箇所の農場で10日間従事した際の目安

| NO | 項目 | 規格 | 必要数 | 備考 |
|----|---|----------|-----|--|
| 1 | AED | 台 | 1 | |
| 2 | 自動血圧計(携帯用) | 台 | 2 | |
| 3 | 交換用乾電池 | 本 | — | 発生時に調達 |
| 4 | デジタル体温計(腋窩用) | 本 | 5 | |
| 5 | 交換用コイン型電池 | 本 | — | 発生時に調達 |
| 6 | 使い捨てゴム手袋M | ／箱 | 1 | |
| | 使い捨てゴム手袋L | ／箱 | 1 | |
| 7 | 救急箱及び薬剤等 | セット | 1 | 消毒薬、絆創膏、ガーゼ、テープ等 |
| 8 | 飲料水(ペットボトル)500ml | ／箱 | 1 | 熱中症対策、創傷洗浄等 |
| | イオン飲料水(ペットボトル) | ／箱 | 1 | 熱中症対策 |
| 9 | アルコール手指消毒薬(1ℓ) | 本 | 1 | |
| 10 | ティッシュペーパー | ／箱 | 5 | |
| 11 | スクリーン(パーテーション) | 枚 | 4 | |
| 12 | 簡易ベッド | 台 | 2 | マットレスでも可 |
| 13 | 使い捨てシート | 枚 | 5 | |
| 14 | 担架 | 台 | 2 | |
| 15 | タオル | 枚 | 10 | |
| 16 | バスタオル | 枚 | 10 | |
| 17 | 毛布 | 枚 | 6 | |
| 18 | ビニール袋(A5サイズ) | 枚 | — | 適宜、嘔吐、氷のう等処置対応 |
| 19 | ビニール袋(ゴミ袋) | 枚 | — | 適宜 |
| 20 | 使い捨てマスク(不織布) | ／箱 | 1 | |
| 21 | 筆記用具(マンツク、付箋、予備用紙等) | | 適宜 | |
| 22 | パルスオキシメーター | 個 | 1 | |
| 23 | 聴診器 | 本 | 1 | |
| 24 | ペンライト | 本 | 1 | |
| 25 | 防水シート(使い捨て) | 枚 | 10 | |
| 26 | 次亜塩素酸ナトリウム(ミルトン・ハイター等) | 本 | 1 | 嘔吐物処理時に使用 |
| 27 | バケツ | 個 | 1 | 嘔吐物処理時に使用 |
| 28 | 2Lペットボトル容器(キャップ付き) | 個 | 1 | 嘔吐物処理時に使用 |
| 29 | ディスポ袖付きエプロン(ビニール製) | 枚 | 10 | 嘔吐物処理時に使用 |
| 30 | ペーパータオル | 100枚入り/組 | 10 | 嘔吐物処理時に使用 |
| 31 | リーフレット(嘔吐物処理用) ①ノロウイルスに注意 ②ノロウイルス感染症を予防しよう! | 枚 | 5 | 嘔吐物処理時に使用 ①消毒液の希釈方法 ②嘔吐物の処理手順 |
| 32 | 掲示物 | | | パウチして準備しておく 「救護コーナー」 受付に注意喚起の掲示 「作業前・後の、健康相談はありません。 以下の方は、作業 従事中止を検討ください。 体温37.5……」 |
| 33 | 報告様式 | 枚 | 30 | |

防疫支援センター 救護対応報告書

農場名: _____

実施年月日 _____

(班) _____

従事時間 _____

~ _____

救護担当者 所属・氏名 _____

救護対応人数(実) _____

人

傷病者対応記録

| | 所属 | 氏名 (かな) | 傷病の概況 | 対応・結果 |
|---|----|---------|-------|--|
| 1 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・作業継続 ・応急処置 ・帰宅 ・受診勧奨 ・救急車搬送 |
| 2 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・作業継続 ・応急処置 ・帰宅 ・受診勧奨 ・救急車搬送 |
| 3 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・作業継続 ・応急処置 ・帰宅 ・受診勧奨 ・救急車搬送 |
| 4 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・作業継続 ・応急処置 ・帰宅 ・受診勧奨 ・救急車搬送 |
| 5 | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・作業継続 ・応急処置 ・帰宅 ・受診勧奨 ・救急車搬送 |

※各班作業終了時、防疫支援センターリーダーに報告すること

**作業前・後の、健康相談
はあいません。**

**以下の方は、作業従事中
止を検討ください！。**

【豚熱防疫作業に従事する皆様へ】

体温 37.5℃以上

血圧 最高血圧 160mmHg以上

最低血圧 100mmHg以上

喘息、心臓病、腎臓病、肝臓病、高血圧、血液

疾患など慢性疾患で治療を受けており健康の

不安がある、体調不良や健康の不安がある方

【鳥インフルエンザ防疫作業に従事する皆様へ】

体温 37.5℃以上

血圧 最高血圧 160mmHg以上 最低血圧 100mmHg以上

喘息、心臓病、腎臓病、肝臓病、高血圧、血液疾患など慢性

疾患で治療を受けており健康の不安がある、体調不良や健

康の不安がある方

インフルエンザ様症状(悪寒、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身

倦怠感、咽頭痛など)がある方

1週間以内に本人・家族がインフルエンザと診断された方

救護コーナー

・ケガ・体調不良になった場合は、
声をかけてください。

・作業前・後の、健康相談はありません。



ノロウイルスに注意!!

冬季はノロウイルスが流行します。
ノロウイルスは、口から体内に入り感染します。

日ごろから、**外出後、調理前、食事前、トイレ後**などには、必ず**液体石けんで手を洗う**習慣を身につけて感染を予防しましょう。

また、二次感染を防ぐため、**患者のふん便やおう吐物の処理にあたっては、使い捨ての手袋及びマスクを着用する**など十分注意をしてください。加えて、**汚物を処理した後は、液体石けんでしっかり手を洗いましょう。**

感染予防の基本は「**手洗い**」です。
液体石けんを用い、**30秒以上**洗いましょう。



▶ 感染の原因

- (1) ウイルスに汚染された二枚貝などを、生あるいは十分に加熱しないで食べた。
- (2) 食品を取り扱う人(家庭で調理を行う人も含まれます。)が感染していて、その人を介して、ウイルスで汚染された食品を食べた。
- (3) 患者のふん便やおう吐物から二次感染した。
★家庭や共同生活施設など、ヒト同士が接触する機会の多いところでヒトからヒトへ直接感染するケースも多いと言われています。

▶ ノロウイルスに感染すると？

潜伏時間(感染してから発症するまでの時間)は、約24～48時間、主な症状は、吐き気・おう吐・下痢・腹痛で、発熱は軽度です。

通常、これらの症状が1～2日続いた後、治ります。後遺症もありません。感染しても発症しない場合もあります。なお、ノロウイルスは、何度も感染します。

症状が消えても数日、長い人で1ヶ月近く、ウイルスがふん便とともに排泄されます。

子どもやお年寄りなど抵抗力が弱い人は、特に注意してください。

▶ ノロウイルス感染の予防や拡大を防ぐ方法

- (1) とにかく石けん(液体石けんがおすすめ)で手をよく洗う。
★外出後、調理前、食事前、トイレ後には、必ず石けんでしっかり手を洗いましょう。
- (2) 患者のふん便やおう吐物には、直接触れない。
★患者のふん便とおう吐物には、大量のウイルスが含まれています。ノロウイルスは少量(10～100個程度)でも、手などを介して感染します。ふん便やおう吐物は使い捨ての手袋及びマスクなどを着用して処理しましょう。
- (3) 汚染された場所や衣類などを消毒する。
- (4) カキやアサリなど二枚貝の加熱調理(食品の中心部で85～90℃で90秒間以上)を徹底する。

▶ 消毒方法の目安

- (1) 熱湯あるいは蒸気消毒……………85℃以上で1分以上
- (2) 塩素系消毒剤(次亜塩素酸ナトリウム) ……0.02%(200ppm) 又は0.1%(1000ppm) ▶約10分

※塩素系消毒剤は、消毒対象物(裏面参照)によって濃度を変えて使用してください。

※塩素系消毒剤には、商品としてピューラックス、ミルトンなどがあります。なお、代用品として塩素系漂白剤(商品名:ハイター、ブリーチなど)も使えます。

※塩素系消毒剤を使って、手指などの体の消毒をすることは絶対にしないでください。また、塩素系消毒剤に酸性物質を混ぜると有毒ガスが発生し、大変危険ですので注意してください。

詳しくは最寄りの保健所へおたずねください。また、感染症や食の安全に関する情報は下記HPでご覧いただけます。

感染症に関する情報 ▶ <https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/index.html>

食の安全に関する情報 ▶ <https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/seiei/eisei/syokuhin.html>

▶ 消毒液（次亜塩素酸ナトリウム希釈液）の作り方

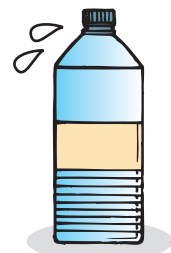
市販の塩素系消毒剤や漂白剤は、6%くらいの濃度（使用前に表示確認）です。空ペットボトル（2ℓ）などを用い、消毒液が簡単に作れます。

● 0.02%（200ppm）次亜塩素酸ナトリウムの作り方

★ペットボトルのキャップ1杯は約5mlです。

原液が6%の場合 ペットボトルキャップ2杯弱の原液を水で2ℓに希釈する。

➡ 食器、衣類などの消毒に用いてください。
ただし、色落ちに注意してください。



● 0.1%（1000ppm）次亜塩素酸ナトリウムの作り方

原液が6%の場合 ペットボトルキャップ8杯強の原液を水で2ℓに希釈する。

➡ ふん便やおう吐物などの汚物を除去した後用いてください。

★消毒液を作る際は、手袋を着用してください。消毒液は冷暗所に保管し、子どもなどが触れないよう注意してください。

★時間が経つにつれ効果が薄れますので、使用するたびに調整して下さい。

▶ 患者のふん便・おう吐物の処理

- 1 準備品**
- 使い捨て手袋
 - マスク
 - エプロン
 - ふき取るための布やペーパータオル
 - ビニール袋
 - 消毒液（次亜塩素酸ナトリウム）など

2 使い捨ての手袋とマスク、エプロンを着用する。



トイレが汚染された場合の消毒

3 ふん便で汚染された便座や床は、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを十分しみ込ませた使い捨ての布やペーパータオルでふく。量が多い場合は、使い捨ての布やペーパータオルでふき取り、その後、次亜塩素酸ナトリウムを十分しみ込ませた布やペーパータオルなどでふいて（同一面でこすると汚染を拡げるので注意）消毒する。

4 使用した布などは、すぐにビニール袋に入れて処分（この際、ビニール袋に0.1%次亜塩素酸ナトリウムをしみ込む程度に入れておく）する。その後、手をウイルスで汚染しないよう手袋をはずして（外側を内にする）、ビニール袋に入れて処分する。終了後、しっかりと手洗い、うがいを行う。

おう吐物の処理

3 おう吐物は使い捨ての布やペーパータオルなどで外側から内側に向けて、ふき取り面を折り込みながら静かにぬぐい取る。

4 使用した布やペーパータオルなどは、すぐにビニール袋に入れる。

5 おう吐物が付着していた床とその周囲を、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを十分しみ込ませた布やペーパータオルなどでおい消毒（次亜塩素酸ナトリウムは鉄などの金属を腐食するので、ふき取って10分程度たったら水ぶき）する。

じゅうたんなど脱色する物の消毒には、水ぶき後、スチームアイロンの使用も有効です。

6 処理後は、手袋をはずしてしっかりと手洗い、うがいを行う。手袋は、使用した布やペーパータオルなどと同じようにビニール袋に入れて処分する。

留意事項

- ・ 汚物の処理時とその後しばらくは、大きく窓を開けるなどして換気してください。
- ・ 汚物処理のために着用したエプロンなどの着衣は、すみやかに熱湯などで消毒してください。
- ・ 汚物を処理した後、48時間程度は感染（発症）の有無に注意してください。もし、感染が疑われるような場合には、医師の診察を受けてください。

ノロウイルス感染症を予防しよう！

ノロウイルス感染症患者の便や嘔吐（おうと）物中には大量のノロウイルスが存在します。

《床などに飛び散った患者の嘔吐物の処理方法》

～日ごろより用意しておくもの～

- マスク ●エプロン ●手袋（2組あると便利です） ●新聞紙 ●ビニール袋 ●汚物入れ
- 古タオルまたはペーパータオル等 ●塩素系消毒薬・計量カップ ●消毒液作成用バケツ

塩素系消毒液（1,000ppm）を約3リッター作成する

| 作りたい濃度 | 原液の濃度 | | 希釈倍数 | | 原液 | 水 |
|--------------------|-------|-----|------|-----|-------|----|
| 0.1% (1,000ppm) | 1% | の場合 | 10倍 | にする | 330ml | 3L |
| | 6% | | 60倍 | | 50ml | 3L |
| | 12% | | 120倍 | | 25ml | 3L |

- 嘔吐物の処理は1,000ppmでお願いします。 ●塩素系消毒薬は漂白作用があります。
- 必ず手袋をして肌などに直接接触しないようにお願いします。



処理をする前に

1. 周囲にいる人を離れた場所へ移動させ、窓を開けるなど換気します。
2. 嘔吐物の飛散を防ぐため、新聞紙やペーパータオルなどで覆います。
3. 嘔吐した人に対する対処を行います。
4. 嘔吐物の処理を行います。

【1・3はできれば同時進行で、嘔吐物の処理は最少人数で行います。

嘔吐物は素手で触らない（手袋を使用します）】

1. マスク、使い捨てのガウンまたはエプロン、手袋をする。



2. バケツに消毒液を作り、その中に新聞紙やタオルなどを浸す



3. まず、新聞紙で嘔吐物を取り除き、次にタオルで拭く



4. 拭き取った新聞紙やタオルはビニール袋へ入れる



5. すべて入れ終わったビニール袋の口をしっかりと縛る。



6. 嘔吐物入りのビニール袋を、別のビニール袋へ入れる



7. 同じ袋に使用した手袋なども一緒に入れ、しっかりと縛る。

8. 嘔吐物を拭き取った場所は、消毒薬で湿らせたタオルなどでしばらく（10～30分）覆っておく。
 ※吐物は半径2～3mぐらいまで飛び散るので、広い範囲を消毒するとともに靴底の消毒もする。
 ※塩素系消毒薬は、金属を腐食させるので良く拭き取り10分くらいしたら水で拭く。

9. しっかりと手洗い、うがいをする。

家畜防疫支援センターでの救護担当者名簿【豚熱・鳥インフルエンザ共通】

| 班 | 日程 | 従事時間(想定) (原則8時間勤務) | 保健師 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-----|-----------------------|-----------------|-------|--------------|-----|-----------|----|-----------|-------|------------|----|-----------|-------|------------|-----|-----------|-------|-----------|-------|
| | | | 発生場所:中央(水戸含む)管轄 | | 発生場所:ひたちなか管轄 | | 発生場所:日立管轄 | | 発生場所:潮来管轄 | | 発生場所:竜ヶ崎管轄 | | 発生場所:土浦管轄 | | 発生場所:つくば管轄 | | 発生場所:筑西管轄 | | 発生場所:古河管轄 | |
| 1班 | 1日目 | 0:00 ~ 8:00 | 中央 | ひたちなか | ひたちなか | 日立 | 日立 | 潮来 | 潮来 | 竜ヶ崎 | 竜ヶ崎 | 土浦 | 土浦 | つくば | つくば | 筑西 | 筑西 | 古河 | 古河 | 中央 |
| 2班 | 1日目 | 8:00 ~ 16:00 | 日立 | 潮来 | 潮来 | 竜ヶ崎 | 竜ヶ崎 | 土浦 | 土浦 | つくば | つくば | 筑西 | 筑西 | 古河 | 古河 | 中央 | 中央 | ひたちなか | 日立 | ひたちなか |
| 3班 | 1日目 | 16:00 ~ 0:00 | 竜ヶ崎 | 土浦 | 土浦 | つくば | つくば | 筑西 | 筑西 | 古河 | 古河 | 中央 | 中央 | ひたちなか | ひたちなか | 日立 | 日立 | 潮来 | 潮来 | 竜ヶ崎 |
| 4班 | 2日目 | 0:00 ~ 8:00 | つくば | 筑西 | 筑西 | 古河 | 古河 | 中央 | 中央 | ひたちなか | ひたちなか | 日立 | 日立 | 潮来 | 潮来 | 竜ヶ崎 | 竜ヶ崎 | 土浦 | 土浦 | つくば |
| 5班 | 2日目 | 8:00 ~ 16:00 | 古河 | ひたちなか | 中央 | 日立 | ひたちなか | 潮来 | 日立 | 竜ヶ崎 | 潮来 | 土浦 | 竜ヶ崎 | つくば | 土浦 | 筑西 | つくば | 古河 | 筑西 | 中央 |
| 6班 | 2日目 | 16:00 ~ 0:00 | 日立 | 潮来 | 潮来 | 竜ヶ崎 | 竜ヶ崎 | 土浦 | 土浦 | つくば | つくば | 筑西 | 筑西 | 古河 | 古河 | 中央 | 中央 | ひたちなか | 日立 | ひたちなか |
| 7班 | 3日目 | 0:00 ~ 8:00 | 竜ヶ崎 | 土浦 | 土浦 | つくば | つくば | 筑西 | 筑西 | 古河 | 古河 | 中央 | 中央 | ひたちなか | ひたちなか | 日立 | 日立 | 潮来 | 潮来 | 竜ヶ崎 |
| 8班 | 3日目 | 8:00 ~ 16:00 | つくば | 筑西 | 筑西 | 古河 | 古河 | 中央 | 中央 | ひたちなか | ひたちなか | 日立 | 日立 | 潮来 | 潮来 | 竜ヶ崎 | 竜ヶ崎 | 土浦 | 土浦 | つくば |

※発生地農場を管轄する保健師は、第1班のみ派遣。オレンジ着色部分は主査・係※発生地農場を管轄する保健師は、1班として派遣。健康相談会場の設営等があるため、オレンジ着色部分は主査・係長以上の方での対応を想定。

※2日目以降、順次委託業者看護師に交替される予定。

令和5年度 家畜防疫作業発生時の救護担当者名簿

R5.10現在

| 保健所名 | 派遣順位 | 課名 | 職名 | 氏名 | 備考 |
|-----------|------|----|----|----|----|
| 中央 | 1 | | | | |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |
| ひたち なか | 1 | | | | |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |
| 日立 | 1 | | | | |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |
| 潮来 | 1 | | | | |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |
| 竜ヶ崎 | 1 | | | | |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |
| 土浦 | 1 | | | | |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |
| つくば | 1 | | | | |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |
| 筑西 | 1 | | | | |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |
| 古河 | 1 | | | | |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |